

長電バス、日曜運行の182本運休へ 運転士不足で1月21日から


清水大輔 2023年12月20日 11時00分



B!

[list](#) 1



長野駅前停車する長電バスの路線バス=2023年12月19日午後、長野市、清水大輔撮影 

長電バス（長野市）は、長野市内を中心に運行している路線バスについて、日曜運行の計182本を来月21日からすべて運休すると18日に発表した。慢性化している運転士不足が原因だという。

運休するのは長野市のほか、須坂市、千曲市、飯綱町で運行している11路線の計182本。土曜・祝日はこれまで通り運行する。アルピコ交通（松本市）と共同運行する「大豆島保科温泉線」と、長野駅から善光寺、県庁などを周回する循環バス「ぐるりん号」は運行を続ける。

同社によると、今回運休するエリアで路線、高速バスの運行に携わる運転士は74人。新型コロナの感染拡大前から約25人不足する状態が続いているという。

コロナ下では需要が落ちた貸し切りバスの運転士らを路線バスに充当することで赤字体質の路線バスを維持してきた。ただ、冬山シーズンやインバウンド（訪日外国人客）の増加時期を迎えることに加

[PR]

え、積雪や凍結による運行時間の遅延も予想される中で、運転士がさらに逼迫（ひっぱく）する恐れがあるという。

同社はこれまでも一部の路線を減便してきたほか、人材確保に向け大型二種免許の取得補助を実施したり沿線自治体に依頼して運転士の募集を広報誌などで知らせてもらったりしてきたが、新規採用は進んでいない。そのため今回、通学、通勤、通院に比較的影響の少ない日曜を運休することにした。

運休期間は当面としている。運転士不足が進んだ場合について「減便、運休を含めさらなる対応が必要となる」としている。

バスの運転士不足は全国的な課題で、労働時間の上限規制が強まる「2024年問題」が来年に迫る中、さらなる状況の悪化も懸念される。日本バス協会は、全国に11万1千人いる運転士が30年に9万3千人に減ると試算。22年時点で7千人とされる不足数が、30年に3万6千人まで増えるの見込んでいる。（清水大輔）